

《ふりかえり もんだい6》

下のことはにつながるように、□の中にことを2つずつ書こう。

【れい】

プレゼントを

けいひんを

もらう

例 びっくりして

例 つまづいて

ころぶ

例 テストを

例 けんさを

うける

つぎの文の―せんのことばを、ただしくなおそう。
□の中にただしいことばを書こう。

あるひ、^①をんなの子が いけで せんたくをして

① おんなの子が

いると、おそろしい ライオンが ^②とうりかかり、

② とおりかかり

ひと目 ^③みて この子を すきとなって しまいま

③ すきになって

した。そして、およめさんに ^④しよおと いえまで

④ しようと

^⑤こつそりと あとを ついて いきました。

⑤ こつそりと

文ぶんの中なかの□にあうことばを、あとの□からえら
んで書かこう。おなじことばは、二にどつかえません。
つかわないことばもあります。

① お客きやくさんが

さっぱり

来こない。

② お金かねを

さっそく

使つかってしまった。

③

だんだん

雨あめがつよくなってきた。

④

そんなに

いそがなくてもいいよ。

さっぱり だんだん さっそく
そんなに そのうち

とちゅうまで文ぶんが書かいてあります。つづきの文ぶんを
かんがえて書かこう。

① きのは、ぜんぜんねむれなかつた。なぜなら

例

おひるねを
たくさんしたからだ。

② あしたは、ピクニックに行く日ひだ。けれど、

例

てんきよほうでは、雨あめだと
つげている。

③ かん字じをたくさんおぼえた。そしたら、

例

かん字テストでひやくてん
をとることができた。

下のことばに^{した}つながるように、□の中^{なか}にことばを2つずつ書^かこう。

【れい】

やまみちを

のぼる

かいだんを

例 こうえんで

①

あそぶ

例 おともだちと

②

ゆれる

例 じしんでいえが

例 でんしゃが

つぎの文^{ぶん}の―せんのことばを、ただしくなおそう。
□の中^{なか}にただしいことばを書^かこう。

あしたは まちに まった うんどおかい^①です。

① うんどうかい

たけるくんは かけつこと おうだまころがし^②に

② おおだまころがし

しゅつじよお^③ します。この日^ひのために まいにち

③ しゅつじよう

いえのにわで おかあさんと れんしゅうお^④ して

④ れんしゅうを

がんばりて^⑤ いました。たのしみだな。

⑤ がんばって

文の中の□にあうことばを、あとの□からえら
んで書こう。おなじことばは、二どつかえません。
つかわないことばもあります。

① この問題は

さっぱり

わからない。

② この雨は

そのうち

やむだろう。

③

そんなに

いそがなくてもいいよ。

④

習ったかん字を

さっそく

書いた。

さっぱり
そんなに

だんだん
そのうち

さっそく

とちゅうまで文が書いてあります。つづきの文を
かんがえて書こう。

① もう、のどがカラカラ。なぜなら、

例

こうていでおにごっこを
たくさんしたからです。

② あの子はすごいんだよ。いつも、

例

テストでまんてんを
とるんだよ。

③ ぼくにはひみつがあるんだ。それは、

例

ないしよだよ。こんど
おしえてあげるね。

つぎの 文し^{ぶん}ょうをよんでといに答^{こた}えよう。

でも、今日^{きょう}は、いつもとちよつとちがいました。
ピーすけは、夜^{よる}が明^あけるずっと前^{まえ}から、目^めをさま
していました。そして、はなうたもうたわずに、
さっさと顔^{かお}をあらいました。お茶^{ちや}ものまないで、
朝^{あさ}ごはんをすませました。朝^{あさ}ごはんは、きいちご
が四^{よん}つぶでした。いつもは、その他^{ほか}にきのこや、
どんぐりなども食^たべるのです。ピーすけは、ごは
んが終^おわると、あとかたづけもしないで表^{おもて}にとび
出^だしました。もっとも、あとかたづけをしないの
は、いつものことでしたが……。

(1) ピーすけが、目^めをさましたのはいつですか。
□の中^{なか}に入ることばを書^かこう。

よるがあけるずっとまえ

から、目^めをさましていた。

(2) —せん①「朝^{あさ}ごはんは」とありますが、いつもの
朝^{あさ}ごはんでは何^{なに}を食^たべているのですか。3つ書^かこう。

きいちご

きのこ

どんぐり

(3) —せん②「あとかたづけもしないで表^{おもて}にとび出^だ
しました。」とありますが、なぜだと思^{おも}いますか。アから
ウからえらぼう。

ア 朝^{あさ}ごはんを少^{すこ}ししか食^たべれなくてはずかしかつ
たから

イ あとかたづけをしたくなかったから

ウ 何か^{なに}ようじがあって、いそいでいたから

ウ

つぎの文^{ぶん}しようにをよんでといに答^{こた}えよう。

大きな森^{もり}がありました。森^{もり}の中^{なか}には、ぬまもありました。ぬまのまわりには、くさがしげっていました。くさは、^①いろいろなみをつけていました。黒^{くろ}いみ、青^{あお}いみ、茶色^{ちやいろ}のみ。森^{もり}には^②いろいろな木^きがはえていました。あかまつ、いちい、しいの木^き。木^きのかわの下^{した}には、小^{ちい}さい虫^{むし}がすんでいました。くさのはっぱの上^{うへ}には、小^{ちい}さい虫^{むし}がはいまわっていました。

(1)ーせん①「いろいろなみをつけていました」とありますが、どんな色^{いろ}のみをつけていましたか。3つ書^かこう。

黒いみ

青いみ

茶色のみ

(2)ーせん②「いろいろな木^きがはえていました」とありますが、どんな木^きがありましたか。3つ書^かこう。

あかまつ

いちい

しいの木

(3)木^きのかわの下^{した}のようすと、くさのはっぱの上^{うへ}のようすを、それぞれ□に書^かこう。

・木^きのかわの下^{した}のようす

小さい虫がすんでいた

・くさのはっぱの上^{うへ}のようす

小さい虫がはいまわっていた

つぎの 文^{ぶん}しょうをよんでといに答^{こた}えよう。

かみさまがなげたまるたは、じゃーぼーん。大きな音^{おと}をたてて、池^{いけ}におちました。

「きゃあ!」 「ぐわあ!」 「ぐう!」

カエルたちは、びっくり。あわてて水^{みず}の中^{なか}へもぐりました。しばらくして、かおを出^だすと、一本^{いっぽん}のまるたがういていました

「あれっ!」 ① へんな王^{おう}さまだ。」

カエルたちは、おそろおそろそばへ行^いきました。

そして、ていねいにあいさつしました。ところがまるたの王^{おう}さまは、だまってぷかぷかういているばかり。そのうち、いっぴきのカエルが、ひよいとまるたの王^{おう}さまにのりました。

「うわあ! ふねのようだよ。おもしろいよ。」 と、大^{おお}よろこび。カエルは、

「ゆっくり休^{やす}める王^{おう}さまだ。」

それから カエルたちは、まいにち王^{おう}さまにのつて、うたったり、ひるねをしたりしました。

ある日^ひ、いっぴきの カエルが、

「こんなおとなしい王^{おう}さまは、たよりない。もつとりっぱなつよい王^{おう}さまを、わたしたちに、おつかわしてください。」と、たのみました。

「よし。それではコウノトリを、王^{おう}さまにするのがいいだろう。」

かみさまは、さっそくコウノトリを池^{いけ}につかわしました。

(1) —せん① 「へんな王^{おう}さま」とありますが、かみさまははじめ、カエルたちにどんな王^{おう}さまをくれたのですか。□の中^{なか}に入^{はい}ることを書^かこう。

まるた

の王^{おう}さま

(2) もういちど、—せん① 「へんな王^{おう}さま」とありますが、へんな王^{おう}さまにあったカエルたちは、はじめどんなこうどうをとりましたか。□の中^{なか}に入^{はい}ることを書^かこう。

おそろおそろ

そば

へ行き、そして、

ていねいにあいさつ

をした。

(3)ーせん②「大よろこび」とありますが、カエルたちは、はじめにかみさまがくれた王さまのどんなところが気に入りましたか。□の中に入ることばを書こう。

王さまの上^{うへ}にのって

ゆっくり

休^{やす}める

うたったり

できる

ひるね

が^ができる

(4)カエルたちは、はじめの王さまのどんなところが気に入らなくて、あたらしい王さまをかみさまにたのんだのですか。□の中に入ることばを書こう。

こんな

おとなしい

王^{おう}さまは

たよりないので、

りっぱなつよい

王^{おう}さまがいいとたのんだ。

(5)あたらしい王^{おう}さまに、かみさまはだれをえらびましたか。□に書こう。

コウノトリ